

あけましておめでとうございます。昨年は教育研究所の事業にご協力いただきありがとうございました。三学期を迎え、多忙な時期となりますが、子どもたちと一緒に歩んでいきましょう。今年もよろしくお願いいたします。



非認知能力

近年、よく取りざたされる「非認知能力」について、見ていきましょう。

これは、学力テストなどでは数値化されない目に見えない感情や心の動きなど、子どもの将来や人生を豊かにする力のことです。近年教育分野において特に注目を集めています。非認知能力は、生涯にわたって役に立つ力ですが、これを育成するには、幼児期から学童期にかけての取組が重要だといわれています。また、子どもだけでなく社会人も非認知能力を鍛えられるかどうか、その後の成功に関わってくるといわれるようになってきました。

認知能力と非認知能力の定義

人間の能力は、「認知能力」と「非認知能力」の2種類に分けられます。

「認知能力」とは、IQ（知能指数）に代表されるような、点数などで数値化できる知的能力のことです。一方、「非認知能力」とは、認知能力以外の能力を広く示す言葉で、数値化することが難しい内面的なスキルを指します。研究者によって様々に定義づけられるケースもありますが、下に一例を紹介します。

分類	非認知能力の名前	具体的な能力
自分を高める力	自己認識	やり抜く力、自分を信じる力、自己肯定感
	意欲	学習志向性、やる気、集中力
	対応力	応用力、楽観性、失敗から学ぶ力
	クリエイティビティ	創造力、工夫する力
自分と向き合う力	忍耐力	粘り強く頑張る力
	セルフコントロール	自制心、理性、精神力
	メタ認知	客観的思考力、判断力、行動力
他者とつながる力	社会的能力	リーダーシップ、協調性、思いやり
	対人力	コミュニケーション力や共感性

「非認知能力」という言葉にはあまり馴染みがなくても、その具体的な中身はこれまでに一度は目にしたものばかりだと気づきます。

非認知能力が世界的に注目される背景

アクティブラーニングと家庭訪問をして親子の関わり方についての指導を受けたグループと、そうでないグループでは、認知能力に大きな差がないものの、前者のグループは、学習成績が高く、よりよい安定した社会生活を送り、犯罪率等が低いという結果が出たためです。このことから、両者の差を生み出したのは、認知能力以外の力、すなわち「非認知能力」であり、その能力こそが社会への対応力につながって、子どもたちの人生をより豊かにしたと考えられるからです。

非認知能力は幼児期から学童期に育成しやすい

その2つの理由

1. 子どもが非認知能力を伸ばせるようなアクティビティを取り入れやすいこと。

非認知能力を育成するには、日々の生活や遊びの中で楽しみながら伸ばすのが最適だと言われています。園や小学校などでの活動の中で、家族の関わりの中で様々な活動を入れるとよいでしょう。

2. この時期の子どもは、新しいことに挑戦する力や、多くのことを吸収する力が特に高いこと。



様々な非認知能力を育みながら、更なる学びにもつなげやすく、多くの力をバランスよく伸ばしていくことができるでしょう。

非認知能力を育てるポイント

非認知能力を育成する上で大切なことは、普段の生活の中で無理なく、楽しく取り入れるということです。3つポイントを具体的に示します。



1. 「遊び」を通して育成する

様々な「遊び」を取り入れることがおすすめです。ここで大切なのは、遊びの中で子どもが「自分で考える力」を発揮できるように意識することです。

身近な素材を使う工作遊びでは、「何を使おうか」「どんなものを作ろうか」と試行錯誤する過程で、想像力や創造力、工夫する力、最後までやりぬく力などの非認知能力を育成することができます。幼児期には手で触った感触や色などを中心に楽しんでいたものが、小学生になると複雑な仕組みを考えて工夫するようになるなど、年代に合わせた成長も見ることができるようになります。

幼児が大好きな「ごっこ遊び」も、非認知能力を育成する遊びとしておすすめです。様々な役を想定してなりきる想像力や表現力、友だちと役割を調整する上での交渉力や柔軟性、お互いに関わり合いながらの協調性やリーダーシップなども身につけることができます。ごっこ遊びの中にお買い物要素を取り入れれば、お金の概念を理解したり、自分で計算したりするなど、認知能力と一緒に伸ばすことにもつながるでしょう。

2. 好きなことを通して育成する

子どもが様々な遊びをするときには、「子どもが好きなことをする」という視点も重要です。というのは、大人が、「遊びを通して非認知能力を伸ばそう」と意識しすぎると、遊びの方向性を必要以上に制約・誘導することにつながってしまうからです。子どもが好きなことをして楽しむからこそ非認知能力を伸ばすチャンスは広がります。

子どもの興味が次々と新しいものに移るときは、気持ちの向くままに好きなことをさせてあげましょう。「目移りしないで、一つのことに集中してほしい」と感じるかもしれませんが、もしかするとその中で、想像力や創造力など、“何か別な力”が育まれているかもしれません。非認知能力とは、実に多岐にわたるものです。子どもの意思を尊重し、自由に取り組みさせてあげる中で、様々な力が自然と育成されていくものです。大人は、それを見取っていくことが大切です。

3. 周囲との関わりの中で育成する

認知能力と非認知能力の大きな違いの一つに、「周囲との関わり」という視点があります。認知能力は、計算や漢字の書き取りを練習したり、歴史や単語などをしっかり覚えたりという側面も大きく、一人で取り組めるものが多いと言えます。しかし、非認知能力はこれと大きく異なります。

自分で工夫して作った作品を友だちと見せ合ったり、他の子のアイデアがすてきだと思ったら自分も取り入れてみたり、協力して大きなものをつくりあげたり。意見がぶつかったときには、交渉や調整を試みたり、失敗したときにはそれをバネに取り返す工夫をしたりと、「他者との関わり」の中で学ぶものが実にたくさんあるのです。

幼児期や学童期は、たくさんの友だちと幅広く触れ合う機会が多いほか、家族で過ごす時間も長いものです。楽しい時間を共有する中で、自然と非認知能力を鍛え、子どもの将来につながるような豊かな力を育成していけるよう、私たち大人があたたかく見守りましょう。

それでは、大人である私たちは、どうすれば自分自身の非認知能力を高めていけるのでしょうか。それは、子どもたち同士の関わりを見ることで分かっていくのかもしれませんが。

新しいことに挑戦する力や、そこから吸収する力は、幼児や学童期の子どもたちほど高くはありませんが、“周囲との関わりの中で育成する”という点においては、人生経験豊かな大人であればこそ、他人とのコミュニケーションを大切にしながら得られるものが大きいはず。非認知能力の協調性やリーダーシップが高まると他者との関わりがスムーズでより強固なものになり、自己肯定感ややる気も高まります。仲間との協働が、更なる非認知能力の力を高めてくれるのです。

難しい場面に遭遇しても、仲間がいると何とか乗り切れる、頑張れるという気持ちになるのも非認知能力が高められているからです。家族、職場、地域など、周りの人たちとの関わり方がよいと自分自身も周りの人々も非認知能力が高まり、みんなが充実した気持ちで過ごすことができます。

さあ、あなたは、あなた自身と周囲の人の非認知能力を高める努力をしていますか？
まずは、普段の生活の振り返りをしてみましょう。メタ認知が最初の一步です。



今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。

答えは、最下段に載せています。

第33回中学校駅伝大会の開会式が12月13日（土）に、競技が14日（日）に、「滋賀県希望が丘文化公園」で開催されました。

全国の予選を勝ち抜いてきた生徒の力走が目を引きました。

「滋賀県希望が丘文化公園」は、1969年（昭和44年）に起工し、1974年（昭和49年）9月に全園が完成しました。

野洲市、湖南市、竜王町の2市1町にまたがる、自然豊かで広大な県下最大規模の公園です。全国的にも極めて大規模な公園で、東西約4km、南北約1km、面積416haの総合文化公園です。3つのゾーンに分かれており、敷地が広いので西ゲートと東ゲートにはレンタサイクルがあります。自転車での移動や敷地内サイクリングに使われています。

「文化ゾーン」では、学校のオリエンテーションや企業の研修、スポーツの合宿など、宿泊施設を兼ね備えた「青年の城」があります。

「野外活動ゾーン」では、家族や団体で利用できるキャンプ場やロッジなどの施設が、野外活動センター周辺にあります。また、自然の中でオリエンテーリングが楽しめます。

「スポーツゾーン」では、陸上競技場、野球場、球技場、テニスコート、フィールドアスレチック、スポーツ会館（体育館）などがあります。また、広々とした芝生ランドでは、手軽にバドミントンやボール遊びなどを楽しむことができ、家族連れも多く訪れます。

さて、野洲市北桜にあるのはどの施設でしょうか？



希望が丘文化公園提供

- ①青年の城 ②野外活動センター ③スポーツ会館（体育館） ④キャンプ場

おすすめの図書



『ウェルビーイングをデザインする 小中学生の非認知能力
自ら学ぶ意欲のプロセスモデルで育てる「自分らしく学び続ける力」』
櫻井 茂男 著 出版社 図書文化社
予測困難な社会でも、自分らしい成功・生き方を実現するために必要な力。子どもたちが生涯にわたり「自分らしく学び続ける力」を高めるために、教育にできること、教師や大人たちがすべきことは何か。学習意欲や学びのエンゲージメントの研究成果をもとに、話題のテーマに切り込む意欲作です。
今、育てたい力を精選。子ども時代と将来（生涯）のウェルビーイングを高める【2領域 11個の非認知能力】を紹介しています。



『非認知能力の強化書』 中山 芳一 著 出版社 東京書籍
全国各地で好評を博す、10代に向けた講演が、待望の書籍化！
”非認知能力”育成の第一人者が、中高生やZ世代に寄り添い、自ら能力を鍛えるための実践的な強化法を順序だてて解説しています。「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」の三つの枠組みに整理しています。
これまでになかった若者を読者対象とした一冊が、学校現場からの熱い要望でついに実現しました。用語をかみ砕き、イラストも多用して分かりやすく書かれています。